

安全管理について

1 危険予知トレーニング (KYトレーニング)

危険予知トレーニングはKYTとか、KY訓練 (KYK) とも呼ばれ、製造業や、建設現場などでよく行なわれているトレーニングです。建設工事や製造作業などに従事する作業者が、事故や災害から身を守るために、作業に取り掛かる前に、自分の周りに危険が潜んでいないかどうか現状を把握し、危険が予測できれば対策・改善策を施し、安全な職場環境を作ろうとするトレーニングです。

職場環境の改善から始まった危険予知トレーニングの手法ですが、現在では子供に対しての危険予知トレーニングの必要性から、導入している学校や地域が増えてます。☞ネットで調べてみて下さい!

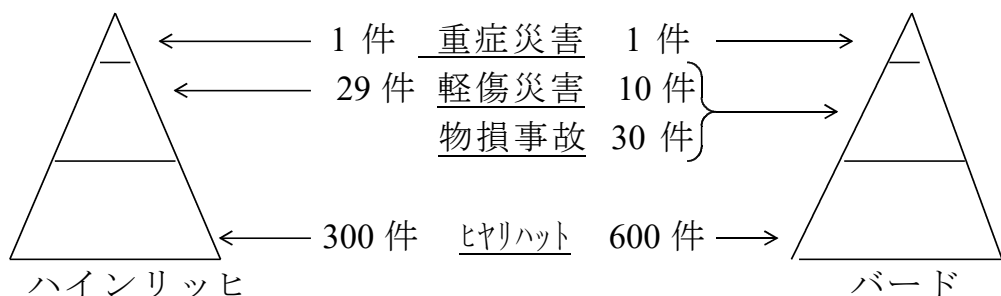
2 ハインリッヒの法則、バードの法則

【ハインリッヒの法則】

1 件の死亡・重傷災害が発生したとすれば、それと同じ原因で 29 件の軽傷災害、また同じ性質の無傷災害 (ヒヤリハット事故) 300 件を伴うといわれています (アメリカの保険会社の技師であったハインリッヒが同じ原因の事故 55 万件について調査。重症 0.3 %、軽傷 8.8 %、障害なし 90.9 %となった)

【バードの法則】

重症災害 1 件に対し、軽傷 10 件、物損 30 件、ヒヤリハット 600 件が発生する確率にある。(アメリカのフランクバードが 297 社 175 万 3500 件の事故を分析)



重大事故の陰には軽微な事故、またその陰にはヒヤリハットが隠れています。軽微なことも見逃さず対処しよう!

